

2024年5月13日 定時総会挨拶

当研究会の事業活動は、各委員会の成果物としての書籍、報告書の編集・発刊、行政・関係団体委員会等への参画、行政・関係団体との意見交換、会員への情報発信もほぼ計画通りに実施できました。

最近、挨拶などいろいろな機会でお話をさせていただいているのが、

「自主対応型」の安全管理の浸透を図っていく。です。

「自主対応型」の安全とは、例えば、自分の健康を守るために、塩分の少ない食事を心がけたり、運動を生活に組入れたり、適切な睡眠をとる等の工夫を凝らします。

食の安全は法律によって守られていますが、プラスとして自分の健康を守るために、いろいろなことをしています。まさに「自主的」に対応することを、当たり前に行っています。

建設現場の安全も同じだと思います。現場での安全を確保するために、法律や規則に従うだけでは十分ではなく、「自主的」に危険性又は有害性を特定し、リスクを見積りし、低減措置をしています。

社会が求める安全レベルは時代とともに変化します。さらに、世の中が期待する安全レベルは、その時代ごとの価値観や社会通念、生活環境等とともに変化していきます。しかも、それはほぼ間違いなく上がる方向にのみ変化し、一度上がった期待レベルは下がってはくれません。試験で80点取れば合格圏だった学校に、90点取らないと合格できなくなる、というようなものです。

科学技術の進歩や生活環境の向上によって社会全体のリスクが少なくなる中で、社会が求める安全レベルが高くなってきており、前例にとらわれることなく、自らの業務を見つめなおし、新しい安全を創っていく必要があります。

建設労務安全研究会は、昭和21年10月に本研究会の前身である労務懇談会が発足してから今年で78周年を迎えます。

今後も、会員各社、関係団体の皆様のお力をお借りし、行政等との連携の下、建設産業の発展、会員各社の安全に貢献できる組織であり続けることを祈念し私の挨拶とさせていただきます。